

## 大阪城トライアスロン 2023 ローカルルール

### 【はじめに】

本大会は「日本トライアスロン連合 (JTU) 競技規則」に加え「大阪城トライアスロン 2023 ローカルルール」(本ルール)を設定して、競技を行う。

### 【大会運営】

- 本大会は安全を最優先として開催し、コース内であっても交通規則が適用される。  
競技中は交通規則を順守し、警察・審判員・スタッフの指示・誘導に従うこと。
- 競技中であっても緊急車両の通行を最優先する。警察・審判員・スタッフの指示に従い、状況に応じて徐行または停止すること。
- 大阪城公園内のバイクコースの試走は禁止する。競技以外でも、バイクに乗車する場合は必ずヘルメットを着用した上で、交通ルールを守って走行すること。
- 選手は大会プログラム(選手受付・トランジションエリアへの出入り・スタート地点への集合・各競技の制限時間・バイクピックアップなど)の時間を守らなければならない。
- 大会当日の時間等の変更は、配信による連絡・大会本部前の提示・会場でのアナウンス等によるものとし、選手は各自の責任で変更事項について注意を払わなければならない。設定された時間に遅れる行為は、ペナルティーの対象または失格となる場合がある。
- 体調や時間制限などにより、競技の続行が不可能と判断した選手に対しては、審判長(以下 HR)の判断によって競技終了を宣告することがある。
- 大会は雨天決行であるが、選手の安全確保が困難と判断される場合、または競技の実施に大きく影響を与える事象が起こった場合は、コース・競技の内容を変更または中止することがある。変更となった事項については、配信による連絡・大会本部前の掲示・会場でのアナウンス等により随時告知する。

### 【競技と装備】

- 競技中であっても、選手は HR の裁量により競技を中止しなければならない場合がある。
- 競技コースにおける周回数のカウントは選手の自己責任とする。競技運営における周回の計測は、アンクルバンドによって行う。
- フロントファスナーのレースウェア着用を認めるが、競技中はファスナーを開けることはできない。

- レースナンバーはナンバーが確実に見えるように、必ず身体の前後に装着すること。  
ナンバーベルトを利用する場合は、1枚のレースナンバーを競技によって前後に移動することを認める。
- レースナンバーが破ける、または外れた場合、審判員（以下 TO とする）・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技の続行を認める。
- レースナンバーはトランジションエリアへの出入り・バイクピックアップ・荷物受け渡しの際に、必ず提示しなければならない。

#### 【ペナルティー】

- JTU 競技規則及びローカルルールに違反する行為に対しては、ペナルティーを与える。
- 選手・スタッフ・TO 等への不適切な言動は、ペナルティーの対象とする。
- ペナルティーの種類は以下の通り。
  1. 一時停止を含む指導
  2. タイムペナルティー
  3. 失格 (DSQ)
  4. 大会からの追放
- 指導は、TO が当該選手のレースナンバーを告げるとともにイエローカード・ホイッスルなどを用いて行うが、これらの行為は必須条件ではない。
- タイムペナルティーは、ドラフティング 60 秒・その他の違反は 30 秒とするが、受付やその他の制限時間に遅れる行為に対しては、この限りではない。
- 違反の場合は、TO がホイッスルを鳴らしてイエローカードを提示し、当該選手のレースナンバーを告げる。
- 違反によりタイムペナルティーを課された選手は、ペナルティーボードに掲示している番号を確認し、自らペナルティーボックスに入らなければならない。入らずにレースが終了した場合、当該選手を失格とする。なお、TO からの誘導はない。
- 失格 (DSQ) は、危険行為およびスポーツマン精神に反する行為、大会からの追放は、さらに重大な行為があった場合に即時適用される。これらのペナルティーの適用は HR の裁量により決定する。
- 競技中にペナルティーが適用されなかった場合でも、レース後に違反が認められた場合は、事後にペナルティーを与える。

#### 【主要な注意】

- 前日および当日のバイクチェックと預託は行わないため、各自で責任を持ってバイクの整備・保管を行うこと。

- 選手は各自でポディーナンバーを貼り付けた上で競技に臨むこと。貼付場所は両腕外側の計2か所を基本とする。
- 受付の際には、本人確認のため、顔写真付きの身分証明書（免許証・学生証など）の提示を義務付ける。定められた受付時間に遅れた場合、大会に出場することはできない。
- 当日受付前の検温で、体温が37.5℃以上の選手は出場できない。
- 発熱以外の理由で当日競技に参加しないことが決まった場合は、受付または本部に申告すること。
- 各競技において周回不足・ショートカット・Uターン箇所の間違い等で、規定の競技距離をカバーしていない場合は失格とする。
- リタイアする場合は、必ず選手本人が大会本部またはTOにアンクルバンドを提出すること。
- 競技中のイヤホン・ヘッドホン・スマートフォン等の使用は禁止する。

#### 【エイドステーション】

- エイドステーションは、スイムスタートエリア前に1カ所、ランコース上に1カ所設置する。各エイドで提供するの水だけとする。
- エイドステーションで提供する紙コップは、必ず所定のゴミ箱に捨てること。公園内・コース上・公道への投げ捨てを禁止し、違反者はペナルティーの対象とする。

#### 【スイム競技】

- 選手は入水チェック終了の時間までにスタートエリアに入らなければならない。一度スタートエリアに入った選手は、スイム競技が終了するまで出ることができない。
- 本大会においては、以下の条件を満たすウエットスーツ（上下）の着用を義務とし、水着・トリアスロンウェアだけでの参加は認めない。
  1. 身体によく合ったサイズであるもの。
  2. 手首及び足首より先を覆わないもの。
  3. 下半身のみを覆う形状でないもの。
  4. 厚さが5mmを超えないもの（各部の厚さはこの範囲内であれば制限を設けない）
  5. 表面に推進力又は浮力を向上させるような加工が施されていないもの。
  6. 内部に浮力を向上させるものが入っていないもの。
- スイムキャップは、大会が支給したものを着用しなければならない。
- スイム競技をスキップ（棄権）し、バイクとラン競技だけを行なうことができる。ただし記録は出ない(SKIP)。スキップを希望する選手はスイムのスタート前までに、スイムTOに申告すること。

- リレー競技では、スイム選手が途中棄権または時間超過でも、バイク競技からのスタートを認める。ただし記録は出ない (SKIP)。スタート時間は別途設定する。
- スイム競技のスキップを選択した選手に対しては、バイク競技のスタート時間を指定し、スタート場所をトランジションエリア内に定める。
- 競技中に小休止することを認める。救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。
- レスチューブの着用を認める。ただし競技中にチューブを使用した時点でライフセーバーによる救助を行い、競技は終了とする (DNF)。
- 大会で用意する風船を目印として装着することを認める。希望する選手はアンクルバンド配布場所で申告すること。
- 制限時間内であっても、TO・ライフセーバーが安全上競技の続行が不可能と判断した場合は、該当選手に対して競技終了の宣告をすることがある。

#### 【トランジション】

- 選手は、定められたトランジションエリア (以下エリア) 開放の時間帯のみ、競技備品をセッティングすることができる。閉鎖時間以降は、エリア内での設営を一切認めない。閉鎖時間に遅れた選手、および時間後に設営している選手は失格となる場合がある。
- エリア内への選手以外 (コーチ・家族・関係者等) の出入りを禁止する
- エリア内に持ち込めるのは競技に最低限必要な備品のみとし、その他の荷物の持ち込みは認めない。また競技備品は選手の妨げにならないよう、各自のスペース内に設置しなければならない。
- TO は公正な競技運営を確保するため、選手の備品を移動する場合がある。また違反した荷物を持ち込んだ選手に対して、ペナルティーを与える場合がある。
- バイクをラックに掛ける時は、常に自らのラックナンバーが手前に見える向きにサドルを掛けることとする。向きを逆にした場合は、他の選手に対する妨害行為とみなす。
- ヘルメットのストラップは、ラックからバイクを取り出す前にしっかりと締めること。バイク競技のフィニッシュ後は、バイクをラックに掛けてからストラップを外すこと。
- ヘルメットのストラップは顎にしっかりとフィットしている必要があり、TO が不適切と判断した場合は、競技中であってもこれを直させるために一時停止を求める場合がある。
- エリア内でバイクに乗車することを禁止する。
- 乗車・降車ラインでの乗降については、乗車時はラインを超えて足を 1 歩以上ついてから乗車し、降車時はラインの手前で足を 1 歩以上ついてから降車すること。
- 競技中を除き、TO の許可がない限りエリア内に入出入りすることはできない。
- 競技備品とバイクの回収はウエーブごとに時間を定める。必ず選手本人が来場し、レースナンバーを出入口で係員に提示すること。

### 【バイク競技】

- JTU 競技規則に従ったトライアスロン専用バイク、またはロードレーサーのみ出場を認める。クロスバイク・マウンテンバイク・ミニベロなどの参加は認めない。
- リレー競技のみクロスバイクの出場を認めるが、その場合ハンドル幅は 50cm 以下とし、安全上、バーエンドグリップの装着は禁止する。
- ライト・ベル・スタンド・カメラ・スマートフォンなど、競技に必要な機器の装着は禁止する。装着している場合は取り外して参加すること。
- エアロバー（DH バー）の使用を認める。ただし（ハンドルバーも含む）バーのエンドキャップが外れている場合は、該当部分を塞がなければ参加を認めない。
- エアロヘルメット、ディスクホイール（後輪のみ）を使用することを認める。
- 周回数を管理するために、サイクルコンピューターの装着を推奨する。ただし、スマートフォンの装着による計測は禁止する。
- バイクコース上にエイドの設置が無い場合、バイク専用のボトルによる給水を推奨する。ただしペットボトルの装着・使用は禁止する。
- 以下の区間では追い越し・追い抜きを禁止する。
  1. 大阪城公園内の全コース
  2. 全折り返し地点の 50m 手前から、および折り返し（U ターン）ゾーン内
  3. 最終周回を終えて大阪城公園に戻る駐車場入口の 50m 手前から
- 上記区間内であっても、前走者の機材トラブルまたは著しい低速走行（目安として時速 10km 以下）によって後続車による事故発生が予想される場合は、声かけによる注意喚起を行った後に、右側から追い抜くことを認めるが、いかなる理由でも前方の選手をあおるような走行や暴言は禁止する。
- 本大会ではドラフティング走行を禁止する。ドラフトゾーンは前方選手の前輪先端から後方 10m とする。追い越しは声かけの上で、右側から 20 秒以内に済ませること。

### 【ラン競技】

- ランコースは常に右側走行とする。
- 安全上、裸足によるラン競技は認めない。

### 【フィニッシュ】

- フィニッシュ直前での全力疾走は事故に繋がる恐れがあるため、余裕を持ったフィニッシュを推奨する。
- 本人確認のため、レースナンバーを前面に確認できるよう装着し、サングラスを外すことを推奨する。

- 本大会は同伴フィニッシュを認めない。
- フィニッシュ後は TO・スタッフの指示に従ってアンクルバンドを外し、所定の場所に返却すること。

#### 【制限時間】

- 各カテゴリーの競技制限時間は以下の通り（スイムスタート時間から）

##### [エイジ]

スイム：1 周目 25 分/2 周回 45 分      バイク：2 時間 30 分      ラン：3 時間 40 分

##### [スプリント・リレー]

スイム：30 分      バイク：1 時間 25 分      ラン：2 時間 05 分

- 最終ウェーブのバイク周回最終関門を、バイク競技制限時間の 15 分前に設定する。この時間を超えて次周回に入ることはいできない。
- 上記の制限時間を超過した場合、または制限時間内であっても、TO・ライフセーバーが競技続行が不可、または競技続行が大会運営に影響があると判断した場合は、当該選手の競技終了を宣告する。

#### 【抗議】

- 選手は HR の判定およびその他事項に関して不服がある場合、抗議を行うことができる。ただし、以下の事項に関する抗議は受け入れない。
  1. ドラフティングおよび走路妨害（ブロッキング）
  2. 暴言・暴力など、スポーツマン精神に反するもの。
- 抗議を行う場合は、審議委員会に対して行う。本大会の審議委員会は主催者代表・TD・大阪府トライアスロン協会理事によって組織される。審議委員会は必要によって関係者に事情聴取を行うことがある。
- その他の細則は JTU 競技規則に基づく。

問合せ先メールアドレス

大阪城トライアスロン 2023 競技運営部 oct-tech@optan.jp